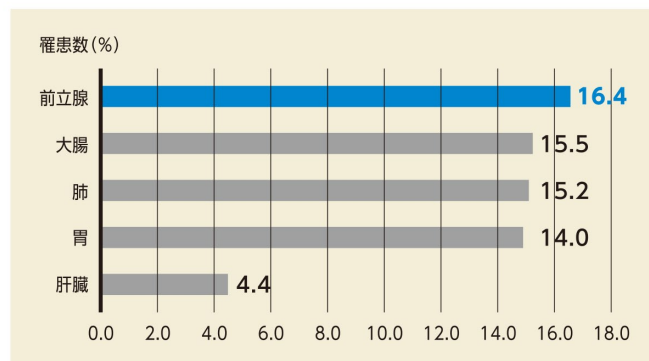


男性の部位別罹患数では第1位

厚生労働省の全国がん登録によると、2020年、男性の部位別罹患数では、前立腺(16.4%)、大腸(15.5%)、肺(15.2%)、胃(14.0%)、肝および肝内胆管(4.4%)の順で、前立腺がんは第1位となっており、年々増加傾向にあります。一方、死亡数は、国立がん研究センターの2022年統計では、肺、大腸、胃、膵臓、肝臓に次いで第6位でした。発生率には人種差があり、黒人(1/4人)>白人(1/8人)>黄色人種(1/11人)となっています。

また、家族に前立腺がんの方がいると2.4~5.6倍の罹患リスクがあり、遺伝的素因も指摘されています。食生活の欧米化(男性ホルモンを増加させる作用のある高脂肪食摂取の増加)が日本に

男性の部位別罹患数(5位まで)



厚生労働省「全国がん罹患数2020年」より作成

おける罹患率の増大に関係しているといわれています。逆に、豆類・穀物の摂取は前立腺がん罹患率と負の相関関係があります。

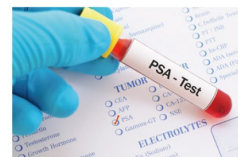
前立腺がんと前立腺肥大症

同じ前立腺疾患である前立腺肥大症とは、加齢に伴う罹患率の上昇や男性ホルモン依存性などの共通点がありますが、それぞれの発生における互いの関与は不明です。

前立腺がんと前立腺肥大症は、発症年齢が重なることから、同一個人に同時に発生することがありますが、早期前立腺がんには特有の症状がなく、臨床症状から前立腺肥大症と鑑別することは困難です。

受診率が十分とはいえない日本

前立腺特異抗原 (prostate specific antigen : PSA) 検査を用いた前立腺がん検診によってがん死亡率が約半減することが、欧米の大規模試験で証明されました。日本でも住民検診や人間ドックなどでPSA検診が取り入れられてきていますが、受診率は十分とはいえず、いまだに発見される前立腺がんの20~30%は骨転移を伴っていることが問題です。



▶ 次回は「前立腺がん - その2 -」です